

月次棚卸の仕訳と集計金額を確認する

以下の前提条件における月次棚卸の仕訳例は以下の通りです。

前提条件

- 《 会計期間 》 2011年4月1日～2012年3月31日
《 入力開始月 》 4月（期首導入）
《 当期仕入高 》 0円
（売上原価の金額を説明しやすくするため、便宜的に仕入を0円で説明します。）
《 前期末棚卸高 》 300円
《 月末棚卸高 》 2011年4月 200円 2011年5月 100円 2011年6月 50円
《 期首残高 》 ※「商品及び製品」に、前期末棚卸高 300円を期首残高として入力します。

帳票名	勘定科目名	期首残高
貸借対照表	商品及び製品	300
損益計算書	期首商品及び製品棚卸高	0
	期末商品及び製品棚卸高	0

注意

月次棚卸を実施する場合は、仕訳を入力する前に、[棚卸処理](#)（[\[導入処理\]-\[会計期間設定\]-\[会計期間設定\]](#)メニューの[\[基本設定\]](#)ページで設定）で「1：月次棚卸」に設定してください。

仕訳例

《 2011年4月における処理 》

前期末棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
期首商品及び製品棚卸高	300	商品及び製品	300

今回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
商品及び製品	200	期末商品及び製品棚卸高	200

注意

当システムでは、2ヵ月目以降、各月の最初に行う振替仕訳においては、「期首〇〇」の勘定科目ではなく「**期末〇〇**」の勘定科目を使用します。

◀ 2011年5月における処理 ▶**前回棚卸高の振替仕訳**

借方		貸方	
期末商品及び製品棚卸高	200	商品及び製品	200

今回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
商品及び製品	100	期末商品及び製品棚卸高	100

◀ 2011年6月における処理 ▶**前回棚卸高の振替仕訳**

借方		貸方	
期末商品及び製品棚卸高	100	商品及び製品	100

今回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
商品及び製品	50	期末商品及び製品棚卸高	50

帳票上の勘定科目の動き

《 合計残高試算表 》

	期首残高	2011年4月		2011年5月		2011年6月		残高
		借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	
【貸借対照表】		(□)	(イ)	(ニ)	(ハ)	(ヘ)	(ホ)	
商品及び製品	300	200	300	100	200	50	100	50
【損益計算書】		(イ)						
期首商品及び製品棚卸高	0	300	0	0	0	0	0	300
			(□)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	
期末商品及び製品棚卸高	0	0	200	200	100	100	50	50
売上原価	0	300	200	200	100	100	50	250

《 部門集計表 》 ※集計方法を「発生」で出力した場合

	2011年4月	2011年5月	2011年6月
【貸借対照表】	(□)-(イ)	(ニ)-(ハ)	(ヘ)-(ホ)
商品及び製品	-100	-100	-50
【損益計算書】	(イ)	(ハ)	(ホ)
期首商品及び製品棚卸高	300	200	100
	(□)	(ニ)	(ヘ)
期末商品及び製品棚卸高	200	100	50
売上原価	100	100	50

参考

月次棚卸に対応したメニュー（[\[部門集計表\]メニュー](#)（[\[会計帳票\]-\[集計表\]-\[部門集計表\]メニュー](#)）など）では、前月末の**期末商品及び製品棚卸高**の残高を、当月の**期首商品及び製品棚卸高**の金額として表示します。この結果、月次棚卸に対応した月次の売上原価が正しく表示されます。

参考

棚卸の予算管理を行う場合は、別途用意されている資料「[月次棚卸における予算額の登録方法.pdf](#)」を、[資料ダウンロード]からダウンロードしてご確認ください。